

大串弘美作 「母になる時」

<前編>

- 大西健二 ただいまー。
- 妻千博 お帰りなさい。…あのね。
- 健二 何だよ。
- 千博 できちゃった。
- 健二 できたって？
- 千博 だから…。
- 健二 ほ、本当かよ。やったー！ す、すごいなあ。よし、卵クラブ買いに行こう。
- 千博 うん。でも待って。その前にお祈りしよう。
- 健二 うん、そうだね。
- 千博 神様、感謝します。今日、病院で、赤ちゃんが…。
- ナレーション わたしは、大西千博、24 歳。夫の健二共々クリスチャン。健二と結婚してもう 4 年になる。そのわたしに、待望の赤ちゃんができたのだ。子供は神様が授けてくださると思っていたので、なかなかできなくても、それほど心配はしていなかったが、会社が忙しいのが、もともとあまり丈夫でないわたしにはよくないかと思い、健二と相談して、3か月前に思い切ってやめた。そして「神様、どうぞ赤ちゃんを授けてください」と、真剣に祈り出した矢先だったのだ。わたしは、神様のおこたえの早さに驚いた。本当に、このおなかの中にわたしとは別の新しい命が宿ったなんて、まだ信じられないし、こんなまだ大人になり切っていないようなわたしに、赤ちゃんなんていいのかな、と少し心配な気もする。とにかく、驚きと喜びと不安とで胸がいっぱいだった。もう夜の10時過ぎだったが、感謝の祈りを終えると、わたしたちは本屋へ急いだ。
- 健二 赤ちゃんの本、たくさん買った方がいいぞ。
- 千博 うん。でも、いっぱいあってどれ買っていいか分かんない。
- ナレーション わたしは、最初に手に取った本を開いてみてびっくりした。
- 千博 ちょ、ちょっと見て。こんな写真載せちゃっていいの？「出産大百科」って、エッチでも何でもない、普通に売ってる本なのに。
- ナレーション ページをめくるたびに出てくる妊婦さんの体の写真や、出産の様子の写真に、もうわたしは度肝を抜かれてしまった。何か人前で見るのが恥ずかしいような、怖いような…。
- 健二 どれにするか、決めたか？
- 千博 うん。とりあえず、卵クラブとこれにしとく。
- 健二 今見てた「出産大百科」てのはいいの？

千博 うん。産むのはまだちょっと先だから、また今度買う。

ナレーション とは言ったけど、本当は、あの出産の様子の写真が怖くて買う気になれなかったのだ。赤ちゃんが欲しいなんて言って、軽く考えていたけど、実はとても大変なことなのだと、事の重大さに今更ながら気づいたのだった。何日もしないうちに、あの、世にも苦しい“つわり”が始まった。

(効果音) (台所で料理を作る音。トイレに駆け込む音。)

健二 大丈夫か? かわいそうに。

千博 レモンちょうだい。

ナレーション わたしの場合、つわりはそれほどひどくはなかったが、妊娠に気づいてから妊娠4か月後半ごろまでの2か月間ぐらい、ほとんどまともなものなど食べられなかった。日によって、または時間帯によって、食べられたり食べられなかったり、食べてもすぐに戻ってしまったり、本当に苦しいものだ。そのたびに、わたしはレモンを丸ごとかじった。

健二 よくそんなすっぱいもん、平気で食べられるなあ。

千博 全然すっぱいなんて感じないのよ。ただ、食べると少し楽になるんだ。

ナレーション ほんとに、あんなすっぱいものが平気で食べられてしまうというのも、妊娠の不思議なところだ。このほかにもさまざまな変化があった。すぐに疲れやすくなったり、変にイライラしたり、ちょっとしたことで涙を流してみたり、全く今までの自分と違うのだ。自分で自分のコントロールが利かないというのも、初めての体験だった。

(音楽) (ブリッジ)

ナレーション つわりも治まりかけたころ、健二がしゃぶしゃぶを食べに連れていってくれた。肉なんて食べられるかどうか不安だったが、サラダバーもあるというので、久しぶりの外食ということもあって、行ってみることにしたのだ。

健二 無理しないで少しずつ食べればいいからね。

千博 うん。

ナレーション わたしは恐る恐る肉を口にしました。

千博 お、おいしい! こんなに美味しく食べ物が食べられるなんて、本当に久しぶり。

ナレーション 思わず涙が出るかと思うほど感動した。ごく普通のしゃぶしゃぶだけど、食べ物がこんなにおいしくて、食べられるということがこんなに幸せで楽しいことだったなんて、今まで全く気づけなかった。

千博 神様、ありがとう!

ナレーション わたしは思わず心の中で感謝した。
5か月にもなると、最初はドキドキしていた検診も、大分慣れてきた。そんなある日の検診で—。

千博 あれ、真理子。

高木真理子 あ、千博。
ナレーション 高校時代のクラスメート、高木真理子だった。
千博 久しぶりー。元気？ 高校卒業して以来だよねー。
真理子 こんなところで会うと思わなかったねー。
千博 今、何か月？
真理子 もう7か月なんだ。
千博 えー、あんまり目立たないね。
真理子 千博は？
千博 まだ5か月だよ。
真理子 そっか。おめでとう。
千博 ねえ、ドキドキしたりしない？
真理子 実は、2人目なんだ。
千博 えー。なんだ、大先輩なのか。
真理子 うん。年子でね。一人産んですっきりしたと思ったら、またすぐできちゃってさ。
千博 すごいなあ。ねえ、産む時痛かった？
真理子 うん。死ぬかと思った。
千博 やっぱりね。やだなあ。
真理子 大丈夫だよ。半端じゃなく痛いけど、産むとケロツと忘れちゃうから。
千博 そんなもんかねえ。
ナレーション わたしは、思いつき不安になってきた。
千博モノローグ 死ぬほど痛い？ どうしよう。でもここでやめるわけにはいかない。やめるってことは、おなかの赤ちゃんを殺すってことだもの。でも…。
ナレーション それからしばらくして、わたしは母親学級に参加することになった。母親学級なんてちょっと照れくさいけど、出産する病院でやっているものなので、きっと役に立つに違いない。出産への不安も少なくなるかも、と思い、勇気を出して行ってみた。
千博 あ、母親学級に来たんですけど…。
受付の男性 あ、こんにちは。えーと、母親学級は、2階の一番右の部屋です。もう何人かお見えになっているので、そちらへ行ってお待ちください。もうすぐ始まりますから。
千博 はい、すみません。
ナレーション 部屋に入っていくと、もう3人ほどいて、イスに座って話していた。
千博 こんにちは。
妊婦 こんにちは。ここへどうぞ、空いてますから。
千博 どうもありがとうございます。
(効果音) (ドアを開けて院長が入ってくる。)
宮崎院長 皆さん、こんにちは。院長の宮崎です。今日は、母親学級によくおいでくださいま

した。この母親学級は、毎週月曜日の1時から、今日も入れて全部で4回行われます。1回2時間ぐらいですので、皆さん頑張って、最後まで参加してください。今日は、妊娠中の食事と運動について勉強しましょうね。ではまず自己紹介をしていただいて、それからビデオを見て始めましょう。

(音楽)

(ブリッジ)

ナレーション

わたしたちは、すぐ仲良くなった。きっと妊婦同士、同じ不安を抱えているからなのだろうが、それでもみんな、母親になる喜びから、顔が輝いていて、楽しそうだった。だが、その中で一人だけ、悲しげというか、憂うつそうにしている人がいた。別に声はかけなかったが、何となく気になった。

翌週、2回目の母親学級の時だった。

千博モノローグ

やっぱり暗いなあ、あの人。何となく先週よりやつれたような気がするし…。

ナレーション

わたしは思い切って声をかけてみることにした。

千博

田中さん、でしたっけ？ 何か元気ないみたいだけど、大丈夫ですか？ 何か心配ごとでもあるんですか？

田中久美

(さえぎるように)ほっといてください!

ナレーション

思いがけない強い剣幕に、わたしはあっけにと取られてしまった。

千博モノローグ

心配して声をかけたのに…。

ナレーション

いささか頭にきたわたしは、彼女の顔を見てはっとした。目に涙を浮かべていたのだ。

千博モノローグ

何か訳があるんだろうな…。

ナレーション

わたしはそう思い、彼女を守ってくれるよう、その夜、神様に祈った。ところが次の日、買い物に出たわたしは、偶然その田中さんに会ったのだ。

(効果音)

(道路の雑踏)

千博

田中さん。昨日はごめんなさい。わたし、余計なこと言っちゃったみたいで。でも、何か心配になっちゃって…。

田中

ほっといてって言ったはずですけど。失礼します。

ナレーション

そう言って彼女が急いで立ち去ろうとした時、

田中

あ!

千博

あ、危ない!

ナレーション

田中さんは、道の段差につまずいて転んでしまった。

田中

痛い…。おなかが…。

千博

大丈夫? 田中さん、田中さん! だれか、救急車を呼んで!

ナレーション

田中さんは、顔が真っ白で意識がなかった。彼女は、彼女の赤ちゃんはどうなっちゃうんだろう。そう思いながら、わたしは彼女の両肩を必死になって抱えていた。

(効果音)

(救急車のサイレン)

(音楽) (不安そうな感じ)

<後編>

ナレーション 田中さんは救急車で病院へ運ばれ、手当てを受けた。少し出血していたが、幸い手当てが早かったので、彼女も赤ちゃんも一命を取り止めた。ただ安静にしていなくてはいけないので、何日か入院することになった。わたしは、夫に電話して事情を話すと、とりあえず、彼女が意識を回復するまで付き添うことにした。でも一人では不安だったし、彼女の問題にどうこたえればいいのか分からなかった。会社の帰りに夫と、教会の高野先生にも来ていただくことにした。先生は病室に入るとまず祈ってくださった。

高野牧師 主よ、田中さんと赤ちゃんの命を助けてくださって感謝します。どうか彼女の抱えている問題をあなたが解決してください。イエス様のみ名によってお祈りします。アーメン。

ナレーション その時、田中さんがうっすらと目を開けた。

田中 ここは…。(はっとして)赤ちゃんは、赤ちゃんは?

千博 大丈夫。手当てが早かったので、赤ちゃんは無事よ。ただ安静にしていなくちゃいけないので、何日か入院してくださいって。よかったわね、田中さん。

田中 ありがとうございます。大西さん、ですよ? すみません、いろいろと。あ、あの、こちらは…。

牧師 あ、申し遅れました。わたしはこの近くの教会の牧師をしております高野です。

健二 千博の夫の大西健二です。

牧師 大西さんご夫妻は、うちの教会員なのですが、あなたが何か悩みを抱えているようなので、一緒に祈ってくれと言われて、失礼かとは思ったのですが、ここへ来させていただいたのです。もしよろしかったら、あなたの抱えている問題を話してみてもいいだけではないでしょうか?

田中 ありがとうございます。ごめんなさい、千博さん。あなたがそんなに心配してくださっているなんて知らなくて。あんなひどいことを言ってしまったりして…。

千博 いいのよ。それより、力になれるかもしれないから話してみて。

田中 (間)実は、わたし、怖い。産むのがすごく怖い。たくさん出血するらしいし、みんな死ぬほど痛かったって言うし。わたしの祖母は難産で、やっと母を産んだ後、亡くなったんです。敗戦の年で、母も栄養失調で危うく死ぬところだったそうです。それに… わたしの姉はダウン症なんです。わたしは身内だから嫌だなんて思ったことはないんだけど、でも、姉の面倒を見るのに、母がどんなに苦労したか、よく見てるし…。わたしが結婚する時も、それを知った夫の家から猛反対されたんです。駆け落ちまでしたもんだから、最後はしぶしぶ許してくれたんだけど、でももし障害のある子が生まれたら、即離婚だって言われてるし…。もし

わたしの赤ちゃんが、手がなかったり、足がなかったり、口が利けなかったらどうしようなんて考えると、とてもじゃないけど産むことなんてできないって思っちゃうの。でも、今更下ろすことなんてできないし…。

千博 そんな、下ろすなんて。ご主人に相談してみたの？

田中 夫は仕事仕事で、毎日帰りが遅くて、わたしの話なんか全然聞いてくれない。わたし、もうどうしていいのかわからないで不安で不安で…。食欲はなくなるし、もういつそのこと死んでしまいたいと思うけど…。(涙声で)

牧師 そうだったんですか。かわいそうに。でもね、田中さん。出産は痛みだけじゃないんですよ。一つの命が誕生して、“オギャー”と産声を上げたときの、あの感動。何にも例えられないほどすばらしいものです。そしてあの、女性の産み終えたときの表情と云ったら、重労働の後で少しやつれてはいるけど、本当にきれいなんです。一つの苦しみを乗り越えたという自信と誇り、母親になった喜びなど、様々なものが入り混じった、実に美しい顔をしてるんですよ。これは、神様が、産みの痛みとともに女性だけに与えられた贈り物でしょうねえ。出産は本当に神秘的です。まさに神の業以外の何ものでもありません。

千博 そうよ、田中さん。わたしも初めての経験だから正直怖いんだけど、出産の苦しさよりも、母になれるっていう喜び、新しい命のことをいつも考えるようにしてる。

牧師 それに、出産で亡くなるというのは、もう昔の話です。

田中 ええ、それは分かるんですけど…。考え出すと、もうダメなんです。

牧師 おばあ様はかわいそうなことをしましたが、医学の進んだ今なら、まず助かっていたでしょうね。だから、そんなに心配することはないですよ。

田中 でも、わたしがこんなに苦しんでいるのに、夫は何も分かってくれない。それが悔しくて。精神的にも肉体的にも女だけがこんなに苦しむなんて、不公平じゃないでしょうか、先生。

牧師 うーん、そう言われると、「ごめんなさい」と言わなきゃいけないかもしれませんね。(笑い)

田中 いえ、先生は違います。うちのなんか、「出産に立ち会って」なんて頼んだら、「バカ言うな」って一蹴するわ、きっと。

健二 いやいや大丈夫ですよ。ご主人も分かってくれますよ。出産の大変さや、あなたがどれほど不安に思っているかということをお話せば、もっと協力的になってくれるはずですよ。特に今回のこともあったんですからね。

千博 そうそう。根気が要るかもしれないけど、夫婦なんだから。ただ責めたり頭ごなしに言うんじゃないで、ご主人が疲れていないときに、一生懸命にお願いするといいみたいよ。だれかさんもそうだから。

健二 あれ、“経験者は語る”かい？ 何だか説得力あるな。(一同笑い)

牧師 それに、もしご主人が立ち会ってくれなかったとしても、もっともっと心強い味方

が立ち会ってくれます。神様は、いつでもどんなときでもあなたと共にいて、あなたを励まし、助けてくださるのですよ。聖書にこんな言葉があります。「主はあなたの足をよろけさせず、あなたを守る方は、まどろむこともない。」(詩篇 121 篇 3 節)こう言われているとおり、神様は休むこともなく、あなたと共にいて守ってくださっています。だから田中さん、安心してください。

田中 牧師 神様ですか…。信じれば、わたしも、大西さんたちのようになれるのでしょうか。もちろんです。田中さん自身の心が変えられるときに、周囲の状況も、そしてご主人も変わっていくんですよ。

千博 田中さん、来週の日曜日、ぜひ教会にいらして。

田中 牧師 え？ ええ…。

それから、障害についてですが、それほど心配されることはありません。たとえ障害のある子供が生まれたとしても、別に恥ずかしがることも、不幸に思うことも全くないんです。田中さんのご実家なんかいい例だ。スウェーデンにもね、障害者のゴスペルシンガーがいるんです。レーナ・マリアさんという方で、この方は、生まれた時から両腕がなく、左足が右足の半分の長さしかないという障害を負っているんです。

田中 牧師 あ、その人、テレビで見たことがあります。

あ、そうですか。でね、そのレーナさんはそんな重度の障害にもかかわらず、水泳もやるし、車も運転するし、食事も、料理も、すべて自分でやっています。数年前に結婚もされました。日本にもコンサートのため何度も来ています。彼女の生き方を見てると、本当に励まされますね。

千博 人間、どんな状況でこの世に生まれても、一生懸命生きることができるんだって、自信がわいてきちゃうんですよ。

田中 牧師 彼女はね、「自分がこんな体に生まれてきたことを憎んだことはない。むしろこんな体に生まれてきて幸せだった」と、コンサートで言ってました。だから、障害があるからといって、不幸になるというのは大きな間違いです。人間は、どう生まれてきたかということよりも、どうやって生きていくかということのほうが大切なんです。どんな赤ちゃんが生まれてきても、その子は、神様があなたにお預けになった子なのです。“あなたなら育てられる”と神様が保証してくださっているのですから、自信を持って産んで大丈夫なんですよ。

ナレーション 田中さんはいつしか涙ぐんでいた。そして、明らかにさっきまでとは違う、安らいだ顔を見た時、わたしは“もう大丈夫だ”と思った。

そして次の日曜日、健二とわたしは教会に向かって歩いていた。

千博 田中さん、来てくれるかな。

健二 うん、来てくれるといいね。それにしても、あの時の千博の「夫の口説き方」の勧めには参ったな。でもやっぱり君の夫は“協力的”だぞ。この間、卵クラブの「パ

パの気持ちが分かるトリプルテスト」で、“理想的な妊夫の鏡”という結果が出たからね。もちろんこの「妊夫」の「夫」は「おっと」だよ。

千博 うっそー。本当に？ 何か間違ってるんじゃないのお？

健二 そうなこと言うと、立ち会ってやらないぞ。

千博 あ、ウソウソ。健ちゃんは、とっても優しい協力的な夫です。

ナレーション そう言いながら、わたしは優しい夫の横顔をそっとのぞいた。その瞬間、わたしのおなかの中で、赤ちゃんがモコモコッと動いたような気がした。この子を、もうじきわたしはこの手で抱ける。そう、わたしは今、“母になる時”を待っているのだ――。

<完>